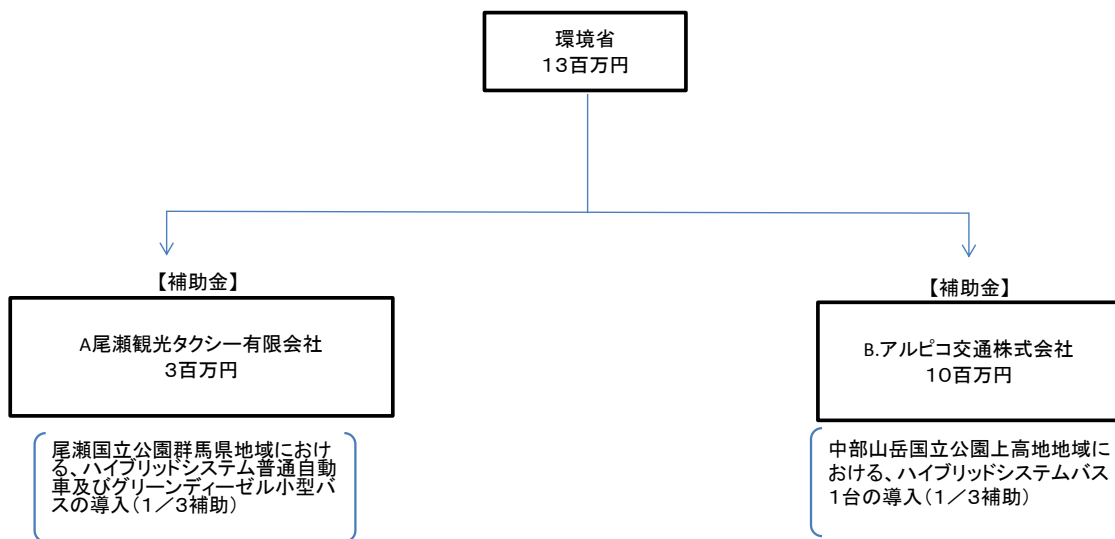


平成25年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	マイカー規制による低炭素化促進事業		担当部局庁	自然環境局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成24年度～平成25年度		担当課室	国立公園課		課長	鳥居 敏男	
会計区分	エネルギー対策特別会計(エネルギー需給勘定)		政策・施策名	1. 地球温暖化対策の推進 1-2 国内における温室効果ガスの排出抑制				
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	特別会計に関する法律第85条第3項第1号ハ 特別会計に関する施行令第50条第8項第8号		関係する計画、 通知等	新成長戦略(平成22年6月閣議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度 以内)	国立公園において実施しているマイカー規制に関連し、マイカー規制区間に低炭素型車両の導入及び駐車場等における低炭素型車両の受入体制の整備を推進することにより、国立公園の利用における低炭素化の取組の強化及びマイカー規制の一層の拡大を図る。							
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	マイカー規制において、乗り入れを行うバス・タクシーなどの代替交通手段に使用される車両について、より低炭素化となる車両を導入する場合の購入費を補助する(補助率1/3)。上記により導入する車両に対応する燃料供給基地や急速充電設備、マイカー規制の乗り換え基地などにおける自家用車電気自動車への充電設備の整備費を補助(補助率1/3)する。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
	予算 の 状 況	当初予算			45	45		
		補正予算			-	-		
		繰越し等			-	-		
	計				45	45		
	執行額				13			
執行率(%)				29				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (25年度)
	マイカー規制区間における低炭素型車両の導入による二酸化炭素排出量の制限及びマイカー規制の拡大。			成果実績	-	-	-	-
	マイカー規制区間の状況、導入車両の種類、運行状況等により条件が変わるため定量的目標は設定できない。			達成度	%	-	-	-
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	低炭素化が図られた国立公園内の地域数			活動実績 (当初見込み)	-	-	2	-
					-	-	(3)	(3)
単位当たり コスト	15百万円/地域			算出根拠	1地域あたりの総事業費45百万円×1/3(補助率)=15百万円			
平成 25 ・ 26 年 度 予 算 内 訳	費目		25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	二酸化炭素排出抑制事業費等補助金		45	0	地域主導による先導的「低炭素・循環・自然共生社会」創出事業に移行			
計		45	0					

事業所管部局による点検						
項目			評価	評価に関する説明		
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。		○	新成長戦略(平成22年6月閣議決定)において、運輸部門での温室効果ガスを削減するとされていること、マイカー規制は、国立公園の環境保全や付加価値向上に資すること等を踏まえ、急勾配、悪路等で条件の悪い国立公園核心部における低炭素型車両の導入を支援するものであり、国が実施すべき事業である。		
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○			
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。		○			
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		○	事業者に2/3以上の負担を求めるとともに、補助額の上限を定め、受益者との負担関係を明確にしている。昨年度は、事業実施期間の確保が十分にできなかったことから不用率が大きくなったが、本年度は具体的な要望が複数あがっていることから、不用率が低くなると思料される。		
	受益者との負担関係は妥当であるか。		○			
	単位当たりコストの水準は妥当か。		○			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		—			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		—			
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○	国立公園の利用における低炭素化の取組のひとつとなっている。		
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		—			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○			
重複排除	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	—		
	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		—			
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
点検結果	—		—	本事業では、国立公園において実施しているマイカー規制に関連し、マイカー規制区間に低炭素型車両の導入及び駐車場等における低炭素型車両の受入体制の整備を推進することにより、国立公園の利用における低炭素化の取組の強化及びマイカー規制の一層の拡大を図るものであり、国立公園の自然環境の保全にも繋がることから、引き続き事業を実施するべきである。		
	—		—			
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
事業全体の抜本的改善	前年度の不用分析を踏まえて、効率的な執行となるよう改善を図ること。					
	所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
廃止	全国のマイカー規制地域の要望を聴取し、不要額を圧縮できる見込み。所見等を踏まえ、平成26年度、本事業は地域主導による先導的「低炭素・循環・自然共生社会」創出事業に移行予定。					
	備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号						
	平成22年	—	平成23年	新24-054	平成24年	新24-027

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何をやっているかについて補足する)
(単位：百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.尾瀬観光タクシー有限公司			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
補助金	ハイブリッドシステム普通自動車購入	2			
	グリーンディーゼル小型バス	1			
計		3	計		0
B.アルピコ交通株式会社			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
補助金	ハイブリッドシステムバス購入	10			
計		10	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	尾瀬観光タクシー有限公司	尾瀬国立公園群馬県地域における、ハイブリッドシステム普通自動車1台及びグリーンディーゼル小型バス1台の導入	3	補助金	-

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	アルピコ交通株式会社	上高地地域における、ハイブリッドシステムバス1台の導入	10	補助金	-